

クビナガリユウがふるさとに帰る

化石を町に寄贈 「鹿児島島の宝に」



↑化石を川添町長に手渡す宇都宮さん(写真右)

平成16年に獅子島幣串の海岸で発掘されたクビナガリユウの化石が10月18日、発見者の宇都宮聡さん(大阪府東大阪市在住)から本町に寄贈されました。クビナガリユウは海に生息していた大型はちゆう類でエラスモサウルス科に属し、約1億年前の地層で発見。「薩摩」と宇都宮さんの名前をとって「サツマウツノミヤリユウ」と名付けられ、町の天然記念物に指定されています。発掘されたのは頭や首を中心とする体の前方部分で、今回寄贈されたのは下あご部分を含む約10点です。

同日行われた寄贈式で、宇都宮さんは「発見された場所に標本があるのが一番理想と考え、鹿児島町に寄贈を決めた。鹿児島島の宝として、教育や研究に役立てていただきたい」と話し、川添町長は「化石が発掘される町として、全国にPRしていきたい」と抱負を述べました。

▼宇都宮さんコメント
東アジアで発見されているクビナガリユウ・エラスモサウルス科の化石の中で最古のもの。全長は5〜6mで、その3分の2が首の部分占める。「情報のかたまり」といえる頭部が残っているのも貴重で、クビナガリユウの地域・時代的な空白地帯を埋める重要な標本で、注目する世界中の研究者が鹿児島にやってくるはずだ。皆さんに全容を知らせる必要があり、ぜひ本物を見ていただきたい。クビナガリユウの歴史で重要なものが、地元から出てきているということを再認識してほしい。

▼獅子島と化石
陸と海、両方の地層が残っている全国的にも珍しい場所。全身骨格が出てくる可能性もあり、化石発掘の潜在力がある島といえる。

化石を見に行こう

町教育委員会では、次のとおりサツマウツノミヤリユウの化石を展示・公開しますので、ぜひご覧ください。

○役場鷹巣庁舎ロビー

11月11日(月)〜29日(金)

○役場指江庁舎ロビー

12月2日(月)〜20日(金)

○歴史民俗資料館

令和2年1月中旬から3月前半を予定

※令和2年4月1日からは県立博物館に寄託される予定です。



↑公開するサツマウツノミヤリユウの化石

◎問い合わせ先

町教育委員会社会教育課
☎(88) 6500「直通」